

月1回
金12回

連続講座

初心者のための 資本論講座



講師

吉井 清文さん

(関西労働者
教育協会会長)

2011年
7/9(土)

開講
せまる!

毎日角氷
水

期間

2011年 7月~

2012年 6月

時間

13:30~16:30

受講料

21,000円

(単発=2,300円)

☆会員・学生:

18,000円 (単発=2,000円)

ところ。

県立図書館
多目的ホール

(岡山市北区丸の内)

※ 受講希望者は、下記申込書に記入の上、郵便振替にてご送金ください。FAXで、また受講料は、郵便振替にてご送金ください。



(会場案内図)

【テキスト】
『資本論』
新日本出版社
新書版①~④

資本主義社会はいま、あらゆる面で混沌を深めている。そうした時代に必ず脚光を浴びてきたマルクスの『資本論』。資本主義の運動法則を明らかにし、人類の未来を指し示す、ふところ深く豊かな世界が眼前にひろがる。

一度は読んでもみたい、何度も挑戦し挫折を繰り返してきた人。そんな人々のための企画。現代的課題とからめて、面白くそして分かりやすく解説してくれることで定評ある吉井清文さんが、第1巻のエキスを縦横無尽に語る。

《内容・テーマ&日程の予定》

回	月 日	カリキュラム & 各回のハイライト
1	7/ 9(土)	『資本論』とは、どういう著作か。 『資本論』は、商品と貨幣の分析から始めます。資本の世界では、「カネがすべて」。ここに、その基礎があります。なにごとも、初めが肝心。
2	8/ 6(土)	労働力が商品となる。賃金は、その価格である。 賃金が安いか高いとかの基準の問題です。生活費が原点ということですね。そうなると、成績で金額を決めるのはおかしいですね。
3	9/ 10(土)	資本の運動はどういう運動か。主体は、価値・貨幣ということ。 資本主義では、人間がもの扱いですね。なぜ?か、がここではっきりします。資本家も人間と見ると、その残酷さが見えません。例外はごく稀にあります……。
4	10/ 15(土)	資本家はどうやってもうけるのか。搾取の秘密の解明。 「もうけがすべて」が資本主義。もうけのもとは労働者です。ここから会社のえげつなさが出てきます。団結すると、労働者は強いですが……。
5	11/ 12(土)	労働時間とは何か。 長時間労働の本質をつかみましょう。なぜ伸びるのでしょうか。短くするにはどうすれば……。労働者がもうけをつくります。労働時間が長いと、もうけが増えます。残業手当ねらいは、不払いにされやすいのです。
6	12/ 10(土)	時短闘争の歴史の偉大さを学ぶ。 時短の決め手は、罰則と監督官です。日本はここが弱い、イギリス労働者の成果です。イギリスと日本の違いをしっかりつかみましょう。
7	1/ 14(土)	時短以外のもうけの方法。 人間の社会性・集団力がもうけの源。分業で職人わざが生まれます。マニュファクチャーリーは、手作業職場のことです。団結すれば対決できますが……。
8	2/ 18(土)	機械化の人間破壊力。しかし労働者は発達する。 会社は「機械の資本主義的利用」に狂奔します。労働者は、機械利用の民主化を要求します。機械は時短の可能性ですが、競争で阻止されますね。
9	3/ 10(土)	賃金形態の役割、賃金の国際比較。 賃金比較の最高の人間的基準は、生活できる金額、時間と作業密度の厳守です。労働組合の産業別、全国的団結が必要ですね。
10	4/ 14(土)	経済成長の本質。 経済成長の実質は、もうけの資本への転換です。労働の成果が、労働者を搾取する仕組みです。新機械の導入は、解雇・失業増・不安定雇用、貧困のもとです。
11	5/ 12(土)	資本主義の出発の残酷さ。 農民から土地を取り上げて、労働者に変えた、これが資本主義の出発でした。女工哀史をご存じですか。
12	6/ 9(土)	資本主義は、社会変革の力と条件を生み出す。 機械化で労働者が増え、要求一致、団結がひろがります。貧困・労働苦・生活苦で、学習した労働者の活動で、生活と政治を変える力、革新力をひろげてきました。

ふりがな		性別	男・女	年齢	才
名前					
住所	〒				
受講料	円	備考			
NO.					

◆定員: 40人(入金順)

【主催】学びのひろば・岡山

〒700-0905 岡山市北区春日町4~26

電&FAX 086-223-1163

(郵便振替)01350-8-82120